

米価暴落 備蓄米買い入れを求めよ

景気・雇用対策特別委員会で主張

早場米は12%下落

3日、景気・雇用対策特別委員会で、心配される米価暴落対策についてとりあげました。

私は、「県は農業に力を入れるとして出荷額向上をめざしているが、農家の方々からは2007年のような米価暴落を心配する声があがっている。現状はどうか。新米への影響は」と質しました。

梅津敏彦・生産技術課長は、「米価はおおむね若干下がり気味で止まっている。新米については、作況指数などにより価格に影響が出てくる」と答えました。

私は、「早場米の産地・宮崎県などでは1俵あたり12%下落の12400円などと報道されており、山形でも不安が広がっている。せめて余裕ある政府備蓄米の買い入れを行うように国に要請すべきだ」と主張しました。黒井哲也農政企画課長は「備蓄米は価格支持でなく



2009年9月13日 第75号

発行 日本共産党県議会議員 渡辺 ゆり子
〈連絡先〉 日本共産党県議団執務室 電話 023-630-3241
自宅：山形市青田2-10-5 電話 023-642-2365

安定供給のためとされている「備蓄米の買い入れは受け入れにくいと思う。適切な対応を求めていきたい」となどと答弁しました。

備蓄米は政府水準に達していない

私は、さらに「現状の備蓄米は86万トと報道され、政府自らが適

正水準としている100万トに達していない。米農家はこの間、減反を強いられ、一方で政府はミニマムアクセス米を毎年77万ト輸入し続けている。市場まかせにした米政策のもとで生産費を償えない生産者米価となっている」と指摘し、当面の緊急対策として「県としても農家の声を受けとめ

新型インフルエンザ対策 保険証ない人はどうするの？

2日、厚生文化常任委員会で、「新型インフルエンザ対策が叫ばれているが、国民健康保険の滞納者で資格証明書交付（保険証が交付されない）人への対応はどうするのか」と質問しました。

酒井俊昭・医療保険主幹は、「県内で資格証交付は1108世帯（07年度）となっているが、各市町村から短期保険証を交付してもらって受診することになる」と答えました。

私は、さらに「役所に行つて感染拡大になりかねない。堺市などでは、感染拡大防止のためいつせいに短期保険証を送付している」と指摘し、「何より重大なことは住民に知らされていないことだ。がまんして受診しない人も出るのではないかと発言しました。

酒井主幹は、市町村に対応を徹底するようにしていきたい」との答弁にとどまりました。



東北の議席守った！ 高橋ちづ子さん決意

先の総選挙で日本共産党は、東北ブロックの比例1議席を守りぬくことができました。ご支援ありがとうございました。日本共産党は新しい国会で、建設的野党として、労働者派遣法の抜本改正、後期高齢者医療制度の廃止、生活保護の母子加算復活など、他党と協力して実現をめざします。

同時に、消費税増税や憲法改悪、日米FTA（自由貿易協定）交渉など国民の利益に反する政治を許さないたたかいを広げ、新政権の問題点を指摘し正していく立場で奮闘します。

【写真上】当選を喜び支持者と握手を交わす高橋ちづ子さん(左)
【写真下】新しい国会へ決意を表明 = 1日、党県委員会事務所前

も様々な動きが予想されます。日本共産党県議団は、総選挙で寄せられた有権者の方々の要望実現に、県政の場であらゆる力を尽くしていきます。9月定例会では、私、渡辺ゆり子が一般質問をする予定です。

新政権のもとで、国の交付金や基金の取り扱いが不透明な部分があり、来年度予算についても様々な動きが予想されます。日本共産党県議団は、総選挙で寄せられた有権者の方々の要望実現に、県政の場であらゆる力を尽くしていきます。9月定例会では、私、渡辺ゆり子が一般質問をする予定です。

総選挙後の県議会は ゆり子県議 一般質問予定

1日に議会運営委員会が開かれ、和嶋県議の辞職に伴い県民クラブが5名から4名となったことが報告されました。

9月県議会定例会は29日開会予定であること、18日に議会運営委員会開催と予算内示を行うことが了承されました。

「日本共産党の農業再生プラン」では、「米の需給や流通の安定に政府が責任を果たす」立場を基本とし、ミニマムアクセス米の義務的輸入中止、生産費にもとづく価格保障・所得補償をかがけていきます。

国民の新しい挑戦の始まり

国民の新しい挑戦の始まり。国民の要望活動や運動がますます重要になっていきます。草の根の運動と結んだ日本共産党の建設的野党の立場もおおいに注目されるものと。国民の要望活動 9月5日、市内七日町で山形市議団とともに、後期高齢者医療制度の廃止を訴える署名行動をしました。同制度の廃止法案は、野党が共同提案し、参議院で可決させ、政府与党を追いつめる大きな力となりました。新しい国会で、ぜひ実現できるように、ともに運動を広げましょう。



山商連の県要請に同席するゆり子県議(左から2人目) = 8月20日、県庁

ゆり子の視点

自公政権への厳しい審判が下りました。新政権に対する期待と不安が感じられます。

選挙期間中の8月20日に、民商の方々の県要請に同席しました。「セーフティネット貸付は広がったけれど、ほんとに切実で必要な人が融資を受けられない実態がある」。中小零細事業者の悲痛な叫びです。雇用の厳しさも就職希望の高校生を直撃しています。総選挙では、格差拡大に対する怒りがあちこちで聞か